

(メッセ海外通信 2013年7→9月号掲載記事)

～希望にあふれた都市・青島～
2年間の研修を通して感じた青島市の姿

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
三浦 万季

私の青島での生活も終わりを迎えようとしています。2011年8月末に初めて青島市に着任して以来、この2年間、様々なことを経験し本当に充実した日々を過ごすことができました。この2年間の振り返ると、万感胸に迫る思いです。

私が着任してから今までの間も、青島市はスピードを緩めることなく発展を続けてきました。青島市が行っている様々な事業の中で、現在私が特に注目すべきと考える事業が“地下鉄建設”、“2014年青島世界園芸博覧会”、“世界各国との交流事業”です。

現在、青島市内の広範囲に亘り地下鉄建設が進められています。現在建設中の地下鉄3号線は来年末に正式運行となる予定であり、2号線も昨年11月から建設を開始しました。さらには青島市内の城陽区をと黄島区までを膠州湾の海底で繋ぐ全長約60キロメートルの1号線、さらには4号線、6路線も来年着工予定です。

また、来年4月25日から10月25日まで青島市李滄区で開催される2014年青島世界園芸博覧会の準備も着々と進められています。6月現在、誘致された100の展示園のうち、92の展示園がすでに建設を開始しており、景観整備は今年の9月までに終え、細部の調整についても今年末までに終える予定になっています。この博覧会には下関展示園も出展予定です。

さらに、青島市では下関市以外の世界各国の都市とも盛んに友好交流を行っています。日本の地方都市との交流だけを例に挙げても、青島市は昨年8月には京都市と友好協力関係都市締結、今年5月には川崎市と経済産業交流に関する覚書を締結しました。

これらの事業から、青島市が様々な分野において意欲を持ち積極的に取り組んでいる姿勢が見て取れると思います。私は青島市で生活する経験は二度とないと自分に言い聞かせ、一分一秒たりとも無駄にしてはならないという強い気持ちを持って、この2年間の過ごしてきたつもりです。目にするもの、耳に入るもの、一つたりとも逃したくないとの思いで私の五感を働かせることで、すべてのことに対して好奇心を持つことが出来、このように刻々と変化する青島市の状況をしっかりと感じることが出来たように思います。そして、経済成長著しい希望に満ち溢れた青島市の人々のプラスの“気”を感じることができたことは、今まで閉塞感のある日本の経済状況に慣れていて自分にとって、とても貴重な経験になりました。青島市で大きく成長した心を下関に持ち帰り、今後の業務に役立てていきたいと考えています。



中国人の友人達と青島市郊外にあるロウ山に登山した際の様子